

令和4年2月18日

各位

公益財団法人 大山健康財団
理事長 神谷 茂

令和3年度「第48回大山健康財団賞」、「大山激励賞」及び「第4回竹内勤記念国際賞」受賞者並びに「第48回学術研究助成金」受贈者決定のお知らせ

大山健康財団は、このほど令和3年度の「第48回大山健康財団賞」、「大山激励賞」及び「第4回竹内勤記念国際賞」受賞者各1名、並びに「第48回学術研究助成金」受贈者10名を下記の通り決定しました。

「大山健康財団賞」は、発展途上国で長年医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者に賞状、記念メダル、副賞を贈呈するもので、「大山激励賞」は、発展途上国で短期間ながら医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者で、今後とも発展途上国においてなお一層の活躍が期待される方に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

「竹内勤記念国際賞」は、故竹内勤前理事長の遺徳を永く記念するため、平成30年度に新しく創設されたもので、発展途上国において長年、熱帯医学、寄生虫学の研究に貢献し、今後とも大いに活躍が期待される若手の研究者に賞状及び副賞を贈呈するものであります。

また、「学術研究助成金」は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症（一般細菌感染症、ハンセン病、リケッチア症、寄生虫病）に関する基礎的あるいは臨床的研究及び疫学的研究に従事されている若手研究者より申請のあった研究課題の中から選考された研究課題に対し助成金を贈呈するものであります。

なお、贈呈式は令和4年3月24日（木）午前11時30分から霞が関コモンゲート西館37階 霞山会館（東京都千代田区霞が関3-2-1）で各賞並びに助成金併せて執り行います。

記

令和3年度「第48回大山健康財団賞」

（敬称略）

【受賞者】 うらべ だいさく
浦部 大策

社会医療法人雪の聖母会 聖マリア病院 国際事業部長

医師（小児科専門医） 医学博士 （満64歳）

【業績内容】

浦部大策氏は、1986年より社会医療法人「雪の聖母会」の海外事業の牽引者としてJICA関連の保健医療プロジェクトにおいて、医療の専門家としてのみならずプロジェクトの運営管理全般に携わり、途上国における病院の医療の質の向上に多大なる貢献をされました。

特に 聖マリア病院が草の根レベルの国際協力を推進するため設立したNPO法人ISAPHにおいて理事としてラオス及びマラウイの農村部の母子保健活動の技術的な指導にも力を注いでこられました。中でも、母子の栄養状態の改善において、現地政府の保健ワーカーを育成し、住民を対象とした健康教育に加え農業や食用昆虫養殖などの多面的なアプローチにより栄養改善を図り、ラオスで多発していたビタミンB1欠乏症による乳児死亡を激減させたことは、ラオス政府より高く評価

されています。

また、1986年のJICAパキスタン・イスラマバード小児病院プロジェクトにチームリーダーとして従事されたのをはじめ、中国でのポリオ根絶活動、インドネシア、ウズベキスタン等における多くのJICA関連のプロジェクトにおいて、保健医療の専門家として尽力されました。

令和3年度「大山激励賞」

(敬称略)

【受賞者】 みよし やすひろ
三好 康広

国境なき医師団 シエラレオネ MSF Hanga Hospital
医師（産婦人科専門医） ザンビア医師免許取得（満38歳）

【業績内容】

三好康広氏は、ザンビア南部州ジンバ地区にあるジンバミッション病院において医療設備や体制が十分とはいえない環境の中、無給のボランティア医師として、現地に移住してまで地域医療の向上に尽力されました。

2006年、長崎大学医学部在学中のアフリカ横断の旅で経験されたことがきっかけで、途上国での医療ボランティアを志され、帰国後は産婦人科が専門であったにもかかわらず内科、外科何でもこなせる医師を目指して医学研修に励まれ、2016年5月にザンビアの医師免許も取得されるなど、ザンビアへの医療協力に並々ならぬ努力とボランティア精神で貢献してこられました。

特に、2020年3月にWHOがパンデミック宣言をした新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大が懸念される中においても現地に留まり、診療活動を続けられました。

令和3年度「第4回竹内勤記念国際賞」

(敬称略)

【受賞者】 まる せろ おおたけ さとう
Marcello Otake Sato

獨協医科大学医学部熱帯病寄生虫病学講座 助教
獣医師 医学博士（満50歳）

【業績内容】

Marcello Otake Sato氏は、長年熱帯・亜熱帯地域の人々をいまだに苦しめている寄生虫病、所謂「顧みられない熱帯病」の研究に携わり、数多くの成果を挙げられています。

特に、グローバル・エコヘルスの概念を念頭におき、特定の寄生虫や寄生虫病だけに着目するのではなく、病原体、媒介生物、宿主の相互関係を幅広く捉え、「現地住民の生活や文化の中でどのように寄生虫病が惹起されるのか？」を研究課題とした研究成果は、学会発表だけにとどまらず、数多くが国際科学雑誌で発表され高く評価されています。

近年は、新たな試みとして環境DNAの解析データや地理情報システム（GIS）を寄生虫病対策に取り入れた研究を進められ、流行地の自然水や土壌などの環境に含まれる寄生虫の遊離DNAを解析することで、当該地域の浸淫の程度を割り出されています。さらに、それらの検出データを罹患者の居住地や媒介生物が生息している地域の地図へ落とし込み、感染の危険がある区域の特定と感染リスクの予測に役立たせるとともに、将来的には調査地域を拡大し、現地住民へ高い精度の「寄生虫病ハザードマップ」を提供することを目指されています。

令和3年度「第48回学術研究助成金」受贈者

(敬称略)

氏名	所属・役職	研究課題	助成額(円)	選考分野
あしだ ひろし 芦田 浩	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 准教授	病原性大腸菌感染における細胞死制御機構の包括的解明	100万	細菌学
くどう やすせい 工藤 保誠	徳島大学大学院医歯薬学 研究部口腔生命科学分野 教授	西アジア地域における <i>Fusobacterium nucleatum</i> 感染の口腔癌発症への関与	100万	細菌学
たにがわ かずなり 谷川 和也	帝京大学薬学部 分子薬剤学研究室 助教	宿主由来脂質を利用したらい菌の細胞壁脂質ミコール酸合成と細胞内寄生への影響について	100万	細菌学
たばた あつし 田端 厚之	徳島大学大学院 社会産業理工学研究部 准教授	川崎病児由来レンサ球菌が産生するコレステロール依存性細胞溶解毒素による血管炎症惹起メカニズムの解明	100万	細菌学
つがわ ひとし 津川 仁	東海大学医学部基礎医学系 生体防御学領域 専任講師	腸管粘膜常在マクロファージによる消化管内共生病原菌クレブシエラの認識・制御機構の解明	100万	細菌学
なかがま ゆう 中釜 悠	大阪市立大学大学院 医学研究科寄生虫学 特任講師	シャーガス病重症化機構の解明に資する新規細胞モデル構築	100万	寄生虫学
にし つばさ 西 翔	三重大学医学系研究科 医動物・感染医学 助教	AP2-TF 標的遺伝子解析によるマラリア原虫メロゾイト形成の分子基盤の解明	100万	寄生虫学
ひらかわ ひでただ 平川 秀忠	群馬大学大学院 医学系研究科 准教授	多孔質炭素を利用した細菌感染症治療技術の基盤構築	100万	細菌学
みやけ けんすけ 三宅 健介	東京医科歯科大学 統合研究機構 特任助教	<i>Nippostrongylus brasiliensis</i> 再感染時の未熟好塩基球浸潤機構の解明	100万	寄生虫学
やまざき ゆう 山崎 雄	広島大学病院 脳神経内科 講師	歯周病原：ジンジバリス菌はアルツハイマー病の病態を促進させるか？-最新ヒト化マウスによる実証研究-	100万	細菌学
			1,000万	

以上

お問合せ先：公益財団法人 大山健康財団 事務局

〒132-0035 東京都江戸川区平井5-29-4-202

電話 03-3614-7762

E-mail: ohfin@nifty.com